



大池を満たす弁財天からの流れ

更級への旅

168

あこがれの田毎の月・その4



姨捨棚田を潤す
弁財天の湧水



大池集落から見た中央高速・姨捨サービスエリア、鏡台山



弁財天から大池に至る水路



大池の開発・整備記念碑

国の重要文化的景観に選ばれたことで「姨捨棚田」は世に一層知られることになりましたが、その選定域は棚田の上方面にある大池まで含まれていることを知りませんでした。「田毎の月」を育んだ棚田の水源が大池付近にあることは知っていたのですが、どんな場所なのか見に行きました。大池の開拓記念碑などがある一角に千曲市と文部科学省が作った案内板があり、そこに大変分かりやすい地図（左）がありました。

その地図によると、重要文化的景観には、大池の水源「弁財天」のお社周辺から湧き出す水が蓄えられ、そして流れるルートがすべて含まれているのです（赤線で囲まれた部分）。棚田の景観だけでなく、棚田を潤す水が今もこんな湧き出し、それが棚田の景観美を形成・維持していることが重要な文化的景観の大事な要素なのだそう。弁財天は河川の神様でもあります。斜面からは一本、太い流れが出ており、ほんとうにこんなという表現がぴったりです（上の写真の下部）。これだけでなく、斜面からは一本、太い流れが出ており、ほんとうにこんなという表現がぴったりです。途絶えることなく水が流れ続ける仕掛けとして大池が江戸時代に整備されたのだそうです。



さらしなの里の羽尾地区と JR 姨捨駅の間、一本松踏切近くの用水の分岐点。石仏が下に広がる棚田を見守っている。